

令和元年度第2回協力病院連絡会議（報告）

日時:令和元年 12月13日(金)15:00から
場所:信州大学医学部附属病院
外来棟 4階大会議室
出席者:教育協力病院連絡会議参加病院



多田医学教育研修センター長の挨拶により開会し、森医学教育部門長が進行を担当した。

1. 令和元年度「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」受入れ実績・資料No.1
 - ・ 森医学教育部門長より資料に基づき受け入れ実績を報告した。また、令和2年は150通り実習から4年経ったため、令和2年度のコース編成は、教育協力病院から寄せられている要望に応じていきたい旨、説明があった。
2. クリニカルクラークシップⅡにおける担当症例数について・資料No.2
 - ・ 資料に基づき、森医学教育部門長より説明があった。「昨年の結果より本年は学内・教育協力病院共に、外来担当者数が減っている。研修医となった際に即戦力となるよう、また、医学教育の面からも、1週に1名程は外来患者を担当させていただきたい。」旨、お願いがあった。
3. 150通り実習9-11月の学生の感想について・資料No.3
 - ・ 森医学教育部門長より資料の基づき説明があった。また、「教育協力病院からのご要望をお受けして、今回から項目に「この実習でやってみたかったこと、勉強したかったこと」を設けた。今後の学生指導のアイデアの一端になれば幸い。今後も提出率を上げるよう、努めていきたい。」と補足説明があった。
4. 信州大学医学部医学科の基本理念と教育理念、コンピテンシー、医学科卒業時の到達目標について・・・資料No.4
 - ・ 森医学教育部門長より資料に基づき説明があった。「理念については長年見直しを行っておらず、また、国際認証の受審を踏まえて、修正と作成を行った。コンピテンシーと卒業時の到達目標はこの度作成し、発表させていただいた。ご参照いただき、今後の実習指導に活用していただけると幸い。今後も様々なご意見を聞きながら、いずれは実習の評価項目として活用できるよう考えている。」と補足説明があった。

本会議に引き続き卒後臨床研修管理委員会を開催した。両会議後の議事後、参加した全病院からヒアリングを行った。挙げられた意見要望は下記の通り。

- ・ 150通りでは、1か月間1人での実習は寂しいかと思う。複数名配属してほしい。
- ・ たすき掛けでの配属はなかったが、150通りの学生が来て、賑やかになった。
- ・ 信大卒業生が研修医として勤務している。今後も150通りに協力していきたい。
- ・ 魅力ある学生が多いと感じている。
- ・ 学生が可能な医行為に関し、学生がどこまでの実習を経験してきたかを一覧で見ることができるものがあれば、良い指導をしやすい。(この意見に対し、森医学教育部門長より「今後は到達目標に手技なども盛り込み、充実させていきたい」との回答があった。)
- ・ 外来経験をさせたいと思うが、紹介状を持参する患者さんが多く、また、受診料の面からも、学生に担当させるのは難しい点もある。
- ・ 学生にどこまでやらせるのかは、難しい点もあるが、まずは手に取ってやらせてみる、ということから始めていきたい。
- ・ 働き方の見直しが求められる中、どのように研修と労働との整合性をとっていくかが課題になっている。
- ・ 臨床実習生が来て、病院全体への刺激になっている。宿舎に対する改善要望等についても応えていきたい。
- ・ 臨床実習からのマッチングに繋がっている。今後も実習に協力していきたい。
- ・ 学生は覇気があり、他大学からの臨床実習生や研修医とも円滑な関係を築いているので、大事に育てていきたい。
- ・ 今回会議に初参加したが、非常に参考になった。

外部委員としてご参加の長野県立病院機構理事長の久保様より「150通り実習が定着してきたと感じ、喜ばしく思う」と、また、SP研究会代表の白澤様より、「SP会員も今後も研鑽を積み、学生教育の一助となるよう、研鑽を積んでいきたい。」と感想が述べられ、16:00に閉会した。

以上